

アクト 58号

NPO 法人九州国立博物館を愛する会
〒818-0110 太宰府市御笠 5-3-1
TEL & FAX 092-408-3062



善一田古墳群 (大野城市)
松村 栄二画

<令和4年度総会報告>

会員の皆様、お変わりはないでしょうか。日頃から九州国立博物館を愛する会活動にご理解・ご協力を頂き誠に有難うございます。

さて先月6月22日水曜日、筑紫野市二日市東コミュニティセンターにて書面議決方式を採用し、通常総会を開催致しました。議案は、①決算報告承認、②本年度計画・予算案承認の2件です。会員総数304人に対し、書面議決書提出196通により定足数を満たし以下の通り議決致しました。

***1号議案：令和3年度事業報告並びに決算報告承認 賛成196、反対0**

***2号議案：令和4年度事業計画案並びに予算案承認 賛成196、反対0**

よって共に過半数の賛同をもち、可決しましたことをご報告致します。



なお、本年度はコロナの変異により、事業もいっそうの慎重さを要するところではありますが、待望の「つくし郷土かるた大会」が3年ぶりに開催できそうです。5月のゴールデンウィークに九博エントランスホールの一隅をお借りして「つくし郷土かるた」のパネル展示を実施しました。(川添)

皆さん！！

ついに待ちに待った待望のかかるた大会がやってきました。

来る8月11日 木・祝「山の日」に、『第7回つくし郷土かるた大会』をいたします。

開催するに当たり、様々な苦勞がありました。

コロナウイルスの影響により大会が2回中止され、実に2年の月日が経ちました。委員会、ボランティアスタッフの中でも何度も今後の実行は厳しいのではという議論もなされ、失意の日々もありました。しかし、そのたびに愛する会メンバーの方々、ご後援をいただ

いている諸団体の方々、以前かるた大会に参加していただいたお子様とご家族の方々、その他沢山の方々により難いご支援・ご協力のお声掛けを頂き、ついに開催の運びとなりました。

我々メンバー一同、皆さまのご期待に添えるよう精一杯の努力をいたしたいと思っております。

どうか今後とも『つくし郷土かるた大会』を温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。(石井)



《 第7回つくし郷土かるた大会 》

令和4年8月11日(木・祝)

会場;大野城まどかぴあ 1F 多目的ホール

住所:大野城市曙町二丁目3番1号

対象者:筑紫地区の小学4・5・6年生(3人で1チーム)

参加費:無料

申し込み方法・締め切り:FAX、7月24日(愛する会事務局まで(092-408-3062))



—参加者様へのご承諾事項—

・広報のため、本イベントの様子を撮影した写真等を各種媒体に掲載することがあります。

・市中のコロナ感染状況や参加チーム数によっては中止となる可能性があります。

・大会公式ルールは公式ウェブサイト「第7回つくし郷土かるた大会公式ページ」をご確認ください。



<令和3年度事業報告>

日付	事業名	時間	場所	備考
4月15日	4月度理事会	18:30	あおぞら保険	
4月26日	ピッカ美化隊 散水作業	10:30	九州国立博物館 花壇	
5月11日	例会 特別展～正倉院宝物～ 解説会	13:45	プラムカルコア	
5月18日	特別観覧 ～正倉院宝物～	17:15	九州国立博物館	
5月14日	5月度理事会	18:30	あおぞら保険	
5月23日	ピッカ美化隊 ビオラ抜根作業	9:30	九州国立博物館 花壇	
6月8日	ピッカ美化隊 肥料鋤き込み作業	9:30	九州国立博物館 花壇	
6月11日	アクト第53号発行 600部		ぶくら	
6月20日	ピッカ美化隊 ポーチュラカ植え付け作業	10:00	九州国立博物館 花壇	
6月21日	6月度理事会	18:30	あおぞら保険	
6月30日	通常総会	15:00	事務局	
7月20日	7月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
7月21日	ピッカ美化隊 散水作業	9:30	九州国立博物館 花壇	
8月3日	特別展観覧例会 ～皇室の名宝～	16:15	九州国立博物館	
8月20日	8月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
8月28日	ピッカ美化隊 追肥作業	9:30	九州国立博物館 花壇	
9月1日	アクト第54号発行 500部		ぶくら	
9月22日	9月度理事会	18:30	丸源産業事務所	
10月13日	特別展観覧例会 ～海幸山幸～	16:15	九州国立博物館	
10月14日	10月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
10月16日	ピッカ美化隊 ポーチュラカ抜根作業	9:30	九州国立博物館 花壇	
10月21日	ピッカ美化隊 肥料鋤き込み作業	9:30	九州国立博物館 花壇	
10月31日	ピッカ美化隊 ビオラ植え付け作業	10:00	九州国立博物館 花壇	
11月18日	11月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
12月4日	福岡県地域文化功労者表彰受賞		アクロス福岡	
12月17日	アクト第55号発行 500部		ぶくら	
12月18日	12月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
1月17日	1月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
2月12日	アクト第56号発行 500部		ぶくら	
2月16日	特別観覧 ～最澄と天台宗のすべて～	16:15	九州国立博物館	
2月17日	2月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
3月18日	3月度理事会	18:30	二日市東コミュニティセンター	
3月26日	第26回九博デー きゅーはく雲海桜	14:00	九州国立博物館	

【収入の部】

No.	科目	予算(A)	決算(B)	差異(B-A)	摘要
1	会費収入	1,764,000	1,343,000	-421,000	
	1. 個人会員	714,000	513,000		
	2. 法人会員	1,050,000	830,000	-220,000	
2	雑収入	100,530	77,936	-22,594	
	1. チケット販売手数料	0	0	0	
	2. 受入利息	30	29	-1	
		0	374	374	ゆうちょ定期
	3. 寄付金収入	0	3,000	3,000	
	4. その他	500	500	0	名刺作成
		0	74,033	74,033	大宰府ロータリー協賛金
	5. 繰越金	100,000	0	-100,000	
	合計	1,864,530	1,420,936	-443,594	

【支出の部】

No.	科目	予算(C)	決算(D)	差異(C-D)	摘要
1	事務費	894,600	795,903	98,697	
	1. 図書印刷費	25,000	32,120	-7,120	封筒印刷
	2. 備品費	0	0	0	
	3. 通信費	155,000	148,427	6,573	
	4. リース費	129,600	129,600	0	
	5. 諸雑費	35,000	41,691	-6,691	トナー
	6. 事務局経費他	550,000	444,065	105,935	
2	会議費	76,000	27,926	48,074	
	1. 会場費	46,000	27,216	18,784	総会
	2. 諸会議費	30,000	710	29,290	理事会
3	事業費	720,000	385,568	334,432	
	1. 総務委員会事業	200,000	183,970	16,030	
	2. 広報委員会事業	200,000	154,659	45,341	
	3. 交流委員会事業	110,000	0	110,000	
	4. 事業委員会事業	80,000	45,916	34,084	
	5. 拡大委員会事業	30,000	1,023	28,977	
	6. ブランディング事業	100,000	0	100,000	
4	九博デー	100,000	148,065	-48,065	協賛金 ¥74,033
5	予備費	73,930	55,997	17,933	九博へ寄附(倉庫)
	その他	0	0	0	
6	支出合計	1,864,530	1,413,459	451,071	

収入-支出	1,420,936	-	1,413,459	=	7,477
-------	-----------	---	-----------	---	-------

令和2年財産目録	繰越金	令和3年度収支	翌年度繰越金
5,112,429	0	7,477	5,119,906

令和2年財産目録	繰越金	令和3年度収支	翌年度繰越金
5,112,429	0	7,477	5,119,906

きゅーはく突撃取材



<エシャミニさん>

4月21日（木）「北斎展」の特別観覧例会の日でした。エントランスホールを歩いているとクロークから身を乗り出し、“こちらに向けて伸ばした長い手を振り続ける笑顔の女性”・・・てっきり私を呼んでいるのだらうと近づいていくと、さらに首を伸ばして遠くをみているようだが・・・目が合うと違う！違う！と訴えている。不思議に思って後ろを振り向くと通り過ぎていく二人のご婦人がいました。そこで、がっかりしている女性に尋ねました。

二人のうち片方が日本語教室の先生だという。自分に気付いてくれず、うな垂れたその表情は、子どものように（近頃の子どもの方がやたらませている？）裏表のない素直な感情が溢れたものでした。業務中であり、声を出したり、クローク室から席を立てなかったので残念な気持ちが一層強くなったかも知れません。彼女が声を抑えてジェスチャーで訴えたというその人は、愛する会会員で私もよく知っている大坪久仁子さんでした。関心が湧いたのでちょっと突っ込んだ質問をしました。お名前は？エシャミニ。ご出身は？スリランカ。大坪さんとはどんな関係？アクロスで開かれている日本語教室の元担当でした。打ち解けて話ができるとてもよい先生です。と。で、アクト突撃取材のターゲットになりました。

上司の三浦さんに取材の許可と手配をお願いして後日、業務前の20分間ほど伺いました。スリランカ出身の方がなぜ九博にいるのか？笑顔で堂々とした印象はどこから来るのか？の二つが取材したい動機でした。母国では英語の教師をしていたが、立命館アジア太平洋大学を卒業したニル・マラ・ガヤンさんと結婚し、来日。当初は博多弁もしゃべれず悲しい毎日を過ごしていました。そこで夫の勧めもあってアクロスの日本語教室に通い、其処で大坪先生と出会うことになりました。第一子を身ごもった時、福岡西方沖地震が発生し、とんでもなく怖い体験もしました。かつてスリランカでは、スマトラ島沖地震の津波が押し寄せてきて大きな被害があったそうですが、インド・オーストラリアプレートは、岩盤が安定しているため地震は殆どないそうです。敬虔な仏教徒のようで月に一度ほど篠栗の涅槃像を拝みに行っているとか。今ではアクロスの教室で6年目、日本語が達者な生徒さんです。20分間はあっという間に過ぎてしまい、最後に肝心のフルネームをお尋ねしたところ「ヘンナヤカ・ヘンナヤカ・ムディヤンセラゲ・アヌプラバ・エシャミニ」というそうで、びっくり。なんでそんなに長い名前になるのか。下線の部分は父の名前が入っている。母の名前はもっと長い。かつてあったヌワラ王国の系譜を継ぐ血筋であるよう

です。ここで初めて「微笑み」の印象の謎が解けた気がしました。大坪さんとご一緒の場でもう少しお話を伺いたいと申し出ると快諾頂き、5月23日の午後、ご主人とお嬢さんお二人で来訪されました。ご主人はIT関連の企業勤めの後、車輸出の会社を経営され、お嬢さんはともに天満宮幼稚園に通っているということです。長女は「スリニ・タルプラバ」、次女は「ネテュニ・サデュプラバ」。名前には両親が心を込めてつけた願いがあります。長女は「星空の輝き」、次女は「青い綺麗な瞳」、因みにご主人は、親族の叔母さんから命名されて「美しく清浄な心をもつ人」、エシャミニさんは「輝き続けるダイヤモンド」ということです。

スリランカはセイロン紅茶で世界中に有名なのになぜ国名を変えたのかな？それは遠くヨーロッパの大航海時代の競争の果てイギリスの植民地時代があり、第二次世界大戦終結後、独立し、のちセイロンからスリランカ「光り輝く聖なる島」に変わりました。敗戦国となった日本に一部の国から分割案がでた時、スリランカ代表は「アジアの将来にとって完全に独立した自由な日本が必要である」と主張されました。世界第2の経済大国となつてのバブル時代、このような歴史を教科書で学んでいれば、共栄圏という志高い日本人をもっと輩出していたと思うが、後の祭り



<エシャミニさん家族と大坪久仁子さん in ぶくら>

か。

ついでに加えると日本を訪れたスリランカのジャヤワルダナ元大統領の顕彰碑が鎌倉高德院の大仏の傍にあり、次のような仏陀の言葉が引用され、刻まれています。「人はただ愛によってのみ、憎しみを越えられる。人は憎しみによっては、憎しみを越えられない」

エシャミニさんの臆しない微笑みの背景には先祖・ご両親から繋がる仏教の「ふかーい愛の糸」があるようです。スリランカのことを、もっと知りたくなってきました。(高野)

沖縄復帰 50 年記念

特別展「琉球」

2022年5月15日は、沖縄が日本に復帰して50年の節目の日でした。NHKの“朝ドラ”をはじめ、テレビや新聞などで広く取り上げられましたので、関心を持たれた方も多いと思います。九州国立博物館で7月16日（土）から開催する特別展「琉球」は、この沖縄の復帰50年を記念する展覧会です。

沖縄はかつて琉球王国として独自の歴史と特色豊かな文化を育み、明治以降の近代化や沖縄戦、戦後の困難を乗り越えて、現在もその歴史と文化を未来に繋げる努力を続けています。本展では、琉球王国の時代を中心に、琉球・沖縄の特色豊かな歴史・文化を象徴する全242件の文化財と復興の歩みから、アジアにおける琉球王国の成立、および特色豊かな文化の形成と継承の意義について紹介します。

まずご注目いただきたい展示作品の一群が、国宝の「琉球国王尚家関係資料」（那覇市歴史博物館蔵）です。琉球国王としておよそ400年間にわたって王国を治めた、尚家に伝わった宝物で、美術工芸品85点と歴史資料1166点が、2006年に沖縄県で初めて国宝に指定されました。本展ではこの尚家の宝物のうち42件を、会期中に展示替えをしながら公開いたします。色とりどりの玉がちりばめられた王冠「玉冠」や、繊細で華やかな紅型をはじめとする王族の衣裳、深いエピソードを持つ王家の宝刀など、魅力あふれる宝物ばかりです。



右) 国宝 玉冠（付簪）（展示期間 7/16～7/31）、左) 国宝 紅色地龍宝珠瑞雲文様紅型綾袷衣裳（展示期間 8/9～8/21）

いずれも琉球国王尚家関係資料、那覇市歴史博物館蔵

また、首里城に関わる作品も多数展示します。首里城は、2019年10月に正殿一帯が火災で焼失してしまいました。大変ショッキングな出来事で、これも多くの方が覚えていらっしゃるのではないのでしょうか。現在、首里城では正殿の再建工事が始まっていますが、今回の再建では、近年明らかになった研究成果などが反映されるようで、完成が楽しみです。本展では、再建の重要資料となった王国時代の首里城の絵図、かつて城内に掲げられた大きな扁額や、戦争を潜り抜けた大龍柱などをご紹介します。



大龍柱（旧首里城正殿前）沖縄県立博物館・美術館蔵

このほかにも、盛りだくさんの美術工芸品や歴史・考古・民俗資料がご覧いただける本展は、まさに「琉球」を丸ごと感じていただける展覧会です。今年の夏は、九博で琉球を。たくさんのご来場、お待ちしております。

九州国立博物館 展示課 主任研究員 一瀬 智



< 展覧会によせて > 九州国立博物館図録より抜粋

* 復帰 50 周年と「琉球展」

本展覧会は、一言でいうと「沖縄の原点」、「琉球とは何ぞや」を問う展覧会であると思います。近世琉球が沖縄の原型を形作った時代。もちろん先史時代や古琉球の前史があり、また近代、戦後の歴史もあります。

本展は美術工芸品や文献資料など近世期の資料が中心ではありますが、時代を超えて、考古学の発掘資料や民俗資料など人びとの暮らしを表す品々も多々展示されます。復帰から五十年の今、この間の沖縄の文化芸術、歴史研究の成果が、盛りだくさんの史資料を通して展開される本展は、まさに「琉球」を丸ごと感じ、見つめ直し、「琉球とは何なのか」を改めて問うものだと思います。本展にかかわった多くの方々に謝意を申し上げるとともに、多くの方々の観覧を期待する次第です。

（田名真之 だなまさゆき 沖縄県立博物館・美術館館長）



～夏季の花植え事業は湯の谷子ども会様や 九博職員様との協働作業でした～

九博を愛する会ピッカ美化隊並びに活動会員の皆さま、参加いただいた皆さん本当に有難うございました。心配された梅雨前線も皆さんの強い思いで南に追いやり、子ども達の熱中症を心配するほどのお天気になりました。

愛する会から川添理事長はじめ 21 名・子ども会から 26 名・九博から両副館長はじめ総務・広報・交流課計 5 名総勢 50 名を超える皆さんが参集、イベント広場と南ゲートの花壇を今年もポータブルカで来館客をお迎えできる準備が出来ました。地域の子ども会との交流は平成 27 年以来になります。双方のプレゼント交換では子ども会から会員一人一人に押し花を使った、しおりに子どもたちのメッセージが書き加えられ、その一つ「これからも花のていれ頑張ってください」とありました。子どもたちからの応援に、思わず今夏も頑張らねば・・・

会員の皆さん、これからが夏本番です。散水作業等お声かけさせていただきますので、どうかまたよろしく願いいたします。

子ども達は作業の後、交流課上野主任などの案内でバックヤード見学を・・・博物館への関心が少し目覚めたのではないのでしょうか。

最後に川添理事長恒例の計らいで参加者全員に梅ヶ枝餅が配られ、皆いっそうの笑顔で散会しました。皆さん本当に有難うございました。

九博を愛する会ピッカ美化隊 橋本・松岡



湯の谷のナウシカたち



ベトナムからの技術研修生三名も
参加していただきました、感謝。



二十歳の九博、その先へ

昨年4月に学芸部長になりました河野一隆と申します。2年半の東博勤務の後、懐かしい九博に戻って参りました。地元、福岡に多くの方々のご支援で誘致された九博は、私も人一倍強くて深い思い入れがあります。さらに愛する会の皆様にも、開館以来たいへんお世話になっております。私もその一員になったつもりで、共に手を携えつつ、未来の博物館の発展に努める所存です。



みなさま、2005年10月の九博開館の頃を覚えていらっしゃいますか？私にとって、あの時の期待と興奮、祝福に満ちたまっさらな展示室の風景は、今でも昨日のここのように思い出されます。その後15年が経ち、博物館もスタッフも様変わりしました。加えて、昨今は新型コロナウイルスの感染防止のため、自由に旅行することも制限され、一時は展覧会に行くことさえ躊躇されていました。しかし今、再び博物館は地域社会に文化の力を与える象徴として世界的に注目されています。これからも、癒しと安らぎの場として国内外から多くのお客様が九博を訪れることでしょう。そして、迎える私たちにも交流を通して、より大きな刺激と感動を与えてくれるはずです。

大阪で半世紀ぶりに万博が開催される2025年は、当館にとっても重要な年になります。この年、九博は晴れて成人式を迎えます。とは言え、東博が今年150周年、京博が125周年、奈良博は当館と同じ年に130周年なので、先輩たちの背中にはるか先。ただし、歴史の長さではかありませんが、当館は他の国博には無い強みがあります。文明のクロスロード・九州に相応しい文化交流というコンセプト、調査研究や展示に活用される最新の技術、地域の人たちと共創した、生きている博物館。若い博物館だからこそできる、誰もやったことのない挑戦こそ、私たちの九博スピリットです。20周年に止まることなく、博物館を次世代につなぎ共に歩み続けるために、一緒に「みんなの九博」を創り上げていこうではありませんか。これからも、どうぞよろしく申し上げます。

小学生の頃、地元の古墳を調べたことがありました。調べたとは言っても、石膏で作ってある古墳の模型を帳面に写したりしていたくらいの事です。それでも装飾古墳のその模型は「本物」を想像させるに十分でした。

今回、善一田古墳群を描きに行き、まず驚いたのは古墳内部が自由に見られるという事でした。子どもたちは、その内部に入っているし、ここは我らの遊び場といった風情で走り回っています。絵を描くにあたって、これほど近しく接せられる被写体があるのでしょうか、私も子供たちを見習いました。

そうして古墳群が風景として見えて来た時、数十年の時を経て「本物」を描くことが出来ました。

編集後記として 松村